



新規採用常備医薬品等のお知らせ

令和8年5月12日に開催された薬事委員会において、別紙のとおり、新規採用医薬品、削除医薬品の各品目が承認されました。

令和8年6月4日（木）からオーダ開始しました。

安全性速報

◎タブネオスカプセル 10 mg(一般名:アバコパン)＜選択的 C5a 受容体拮抗薬＞

2022年の発売開始以降、肝機能障害は「使用上の注意」の「重大な副作用」で明記していましたが、本剤を服用した患者で胆管消失症候群を含む重篤な肝機能障害が発現した症例が報告されており、死亡に至った症例が国内で20例報告されています（国内推定使用患者数 8,503人）。このため、本剤の「使用上の注意」の「警告」を新設し、「重要な基本的注意」を改訂することといたしました。

新規投与患者と継続投与患者ともに、本剤の使用にあたっては、下記の事項に十分にご留意ください。

胆管消失症候群を含む重篤な肝機能障害にご注意ください。

多くの場合、投与開始後3ヵ月以内に発現しています。肝機能障害の早期発見や重症化防止のため、以下の点に十分ご注意ください。

- 以下のタイミングで、肝機能検査を実施ください。
 - ・ 投与開始前
 - ・ 投与開始後3ヵ月間：少なくとも2週間に1回
 - ・ その後3ヵ月間：少なくとも4週間に1回
 - ・ 6ヵ月目以降：定期的
- 以下の所見が見られた場合は、適切な対応をお願いいたします。なお、胆管消失症候群が疑われる場合には、速やかに本剤の投与を中止してください。

所見	対応
基準値上限の3倍を超えるALT又はASTの上昇が認められた場合	本剤の投与を中断し、速やかに患者の状態を評価ください
ALT又はASTが基準値上限の8倍を超える場合	本剤の投与を中止する
ALT又はASTが基準値上限の5倍を超える状態が2週間を超えて持続した場合	
総ビリルビンが基準値上限の2倍を超える場合	
ALPが基準値上限の2倍以上の場合	
黄疸やそう痒等の肝機能障害の徴候又は症状が認められる場合	

- 患者の状態を十分に観察し、自覚症状の発現に注意してください。異常が認められた場合はただちに医師・薬剤師に相談するよう、患者に対してご指導ください。

「クレメジン速崩錠 500 mg」 自主回収のお知らせ

慢性腎不全用剤「クレメジン速崩錠 500 mg」につきまして、一部ロットの参考品において、残留溶媒（エタノール）が規格値を逸脱していることが確認されました。そのため該当ロットが自主回収となりました。

つきましては、院内に在庫されている『クレメジン速崩錠 500 mg』で対象ロットの製品がございましたら、至急薬剤部までご返却ください。

当院において対象ロットの製品はすでに使用済みですが、本件に起因すると考えられる有効性の欠如及び副作用発現の報告はありません。

『ヘパリンナトリウム注 5 千単位／5 mL「AY」』 オーダ停止のお知らせ

血液凝固阻止剤『ヘパリンナトリウム注 5 千単位／5 mL「AY」』につきまして、販売名（屋号）変更に伴い、新販売名が『ヘパリンナトリウム注 5 千単位／5 mL「YD」』となりました。

このたび、旧販売名品の院内在庫が欠品となることから 2026 年 5 月 29 日より処方オーダを停止しました。

なお、新販売名品『ヘパリンナトリウム注 5 千単位／5 mL「YD」』を 5 月 29 日のオーダ入力分から使用開始しました。

「ケナコルト-A 筋注用関節腔内用水懸注 40 mg/1 mL」 オーダ一時停止のお知らせ

合成副腎皮質ホルモン剤「ケナコルト-A 筋注用関節腔内用水懸注 40 mg/1 mL」につきまして、2025 年 7 月 25 日の通知にてお知らせしましたとおり、諸般の事情により供給停止となりました。

このたび、院内在庫が欠品となることから 2026 年 5 月 29 日に処方オーダを一時停止しました。

【当院採用の副腎皮質ステロイド】（適応症注意）

- ・ソル・コーテフ静注用 100 mg、500 mg
- ・ソル・メドロール静注用 40 mg、125 mg、500 mg、1000 mg
- ・デキサート注射液 6.6 mg ※限定出荷中
- ・リンデロン注 2 mg(0.4%)、4 mg(0.4%)、20 mg(2%) ※限定出荷中
- ・水溶性プレドニン 10 mg、20 mg ※限定出荷中

今後の供給状況につきましては分かり次第、連絡いたします。

「ビタミン注射液 500 mg」オーダ停止のお知らせ

ビタミン C 製剤「ビタミン注射液 500 mg」につきまして、諸般の事情により販売停止となりました。

このたび、院内在庫が欠品となることから 2026 年 6 月 3 日より処方オーダを停止しました。

当該薬剤の代替薬として、6 月 3 日より『アスコルビン酸注射液 500 mg「トーワ」』のオーダを開始しました。

「ガストログラフィン経口・注腸用」限定出荷のお知らせ(第2報)

水溶性消化管造影剤アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン液「ガストログラフィン経口・注腸用」におきまして、2026年4月28日にお知らせしましたとおり、欧州当局のガイドラインに準じて算出された暫定管理値を超えるニトロソアミン化合物である N-ニトロソ-メグルミン(N-Nitroso-meglumine)が検出されたことから、限定出荷が継続しており、安定した入荷が厳しい状況となっております。

本剤の購入可能な代替薬はなく、このままではオーダを一時停止せざるを得ない状況となりました。

そのため、必要最小限のオーダをしていただき、可能な場合は漫然とした使用を避けるようお願いいたします。ご協力よろしくお願いいたします。

今後の供給状況につきましては分かり次第、連絡いたします。

『トコフェロール酢酸エステル顆粒 20%「ツルハラ」』院内オーダー再開のお知らせ

ビタミンE剤『トコフェロール酢酸エステル顆粒 20%「ツルハラ」』につきまして、全国的に安定供給が厳しい状況が続き、当院においても院内在庫が欠品する状況となったことから、2023年12月27日より院内処方オーダーを一時停止しておりました（院外処方可能）。

現在も引き続き限定出荷の状況にありますが、当院において入荷が可能な状況となったことから、2026年6月11日より院内処方オーダーを再開しました。

なお、今後の状況によっては再び本剤の院内処方オーダーを一時停止する可能性もありますので、必要最小限のオーダーをしていただき、可能な場合は漫然とした使用を避けるようお願いいたします。ご協力よろしくお願いいたします。

限定出荷等のお知らせ

下記薬剤について、限定出荷等の連絡がありました。今後の安定した供給再開の見込みにつきましては、分かり次第、連絡いたします。

◎テオドール錠 100 mg(一般名:テオフィリン)＜キサンチン系気管支拡張剤＞

出荷量：C. 出荷停止（在庫消尽次第） 製造販売業者の対応状況：⑤供給停止（在庫消尽次第）

◎ジェービックV(一般名:乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン)＜ウイルスワクチン類＞※自由診療医薬品

出荷量：B. 出荷量減少 製造販売業者の対応状況：②限定出荷（自社の事情）

販売中止のお知らせ

◎ビタミン注射液 500 mg(一般名:アスコルビン酸)＜ビタミンC製剤＞

在庫消尽済 経過措置期間満了日：2027年3月31日（予定）

◎ドブトレックスキット点滴静注用 600 mg(一般名:ドブタミン塩酸塩)＜急性循環不全改善剤/心臓疾患診断補助剤＞

在庫消尽時期：2026年9月（予定） 経過措置期間満了日：未定

◎ドブトレックス注射液 100 mg(一般名:ドブタミン塩酸塩)＜急性循環不全改善剤/心臓疾患診断補助剤＞

在庫消尽時期：2027年12月（予定） 経過措置期間満了日：未定

◎ブスコパン錠 10 mg(一般名:ブチルスコポラミン臭化物)＜鎮痙剤＞

在庫消尽時期：2026年12月（予定） 経過措置期間満了日：2027年3月31日（予定）

◎ムコサールドライシロップ 1.5%(一般名:アンブロキシオール塩酸塩)＜気道潤滑去痰剤＞

在庫消尽時期：2026年12月（予定） 経過措置期間満了日：2027年3月31日（予定）

◎ロペミン小児用細粒 0.05%(一般名:ロペラミド塩酸塩)＜止瀉剤＞

在庫消尽時期：未定 経過措置期間満了日：2027年3月31日（予定）

長期臨床実習が始まりました

2026年5月18日から2026年7月31日まで、薬学部5年生を対象とした長期臨床実習（10名）を行います。

薬物治療の有効性と安全性向上に貢献できる薬剤師を目指して、知識と技能の取得に精力的に取り組んでいきます。病棟業務・服薬指導等で病棟を訪れた際にはよろしくお願いいたします。

効能・効果、用法・用量等追加・改訂のお知らせ

* 下線部追加・改訂

◎ルセフィ錠 2.5 mg(一般名:ルセオグリフロジン水和物)＜選択的 SGLT2 阻害剤(2 型糖尿病治療剤)＞

【効能・効果】2 型糖尿病

【用法・用量】通常、成人及び 10 歳以上の小児にはルセオグリフロジンとして 2.5 mg を 1 日 1 回朝食前又は朝食後に経口投与する。なお、効果不十分な場合には、経過を十分に観察しながら 5 mg 1 日 1 回に増量することができる。

◎アレックスビー筋注用(一般名:組換え RS ウイルスワクチン)＜ウイルスワクチン類＞ ※自由診療医薬品

【効能・効果】RS ウイルスによる感染症の予防 (*接種対象者拡大)

【用法・用量】抗原製剤を専用溶解用液全量で溶解し、60 歳以上の者又は 18 歳以上の RS ウイルスによる感染症が重症化するリスクが高いと考えられる者に 1 回 0.5 mL を筋肉内に接種する。

【効能又は効果に関連する注意】

本剤は母子免疫による新生児及び乳児における RS ウイルス感染症の予防に対する適応はない。

【用法及び用量に関連する注意】

＜接種対象者＞

18 歳以上の RS ウイルスによる感染症が重症化するリスクが高いと考えられる者とは、以下のような状態の者を指す。

- ・慢性肺疾患、慢性心血管疾患、慢性腎臓病又は慢性肝疾患
- ・糖尿病
- ・神経疾患又は神経筋疾患
- ・肥満 (BMI 30 kg/m² 以上を目安とする)
- ・基礎疾患若しくは治療により免疫不全状態である又はその状態が疑われる者
- ・上記以外で、医師が本剤の接種を必要と認めた者

◎ゼップバウンド皮下注アテオス 2.5 mg、5 mg、7.5 mg、10 mg、12.5 mg、15 mg(一般名:チルゼパチド)

＜持続性 GIP/GLP-1 受容体作動薬＞※5 mg、7.5 mg、10 mg、12.5 mg、15 mg は院外専用医薬品

【効能・効果】○肥満症

ただし、高血圧、脂質異常症又は耐糖能障害 (2 型糖尿病、耐糖能異常等) のいずれかを有し、食事療法・運動療法を行っても十分な効果が得られず、以下に該当する場合に限る。

- ・BMI が 27kg/m² 以上であり、2 つ以上の肥満に関連する健康障害を有する
- ・BMI が 35kg/m² 以上

○中等症以上の閉塞性睡眠時無呼吸症候群

ただし、BMI が 27 kg/m² 以上に該当する場合に限る。

【用法・用量】＜肥満症＞

通常、成人には、チルゼパチドとして週 1 回 2.5 mg から開始し、4 週間の間隔で 2.5 mg ずつ増量し、週 1 回 10 mg を皮下注射する。なお、患者の状態に応じて適宜増減するが、週 1 回 5 mg まで減量、又は 4 週間以上の間隔で 2.5 mg ずつ週 1 回 15 mg まで増量できる。

＜中等症以上の閉塞性睡眠時無呼吸症候群＞

通常、成人には、チルゼパチドとして週 1 回 2.5 mg から開始し、4 週間の間隔で 2.5 mg ずつ増量し、週 1 回 15 mg を皮下注射する。なお、忍容性が認められない場合には、週 1 回 10~15 mg の範囲で投与量を調整することができる。

【効能又は効果に関連する注意】

＜中等症以上の閉塞性睡眠時無呼吸症候群＞

- ・本剤の適用にあたっては、原則としてあらかじめ食事療法・運動療法による減量を行っても、十分な効果が得られない患者を対象とすること。ただし、患者の重症度や合併症等から、本剤による早期の治療開始が必要と判断される場合はこの限りではない。
- ・無呼吸低呼吸指数 (AHI) が 15/h 以上の患者を対象とすること。
- ・本剤は体重減少に伴い症状の改善を期待する薬剤であるため、「17. 臨床成績」の項の内容を熟知し、臨床試験で対象とされた患者背景、並びに本剤の有効性及び安全性を十分に理解した上で、適応患者の選択を行うこと。

限定出荷等解除のお知らせ

◎グロベニン-I10%静注 5 g/50 mL(一般名:pH4 処理酸性人免疫グロブリン)〈血漿分画製剤〉※代替医薬品

2026年4月1日より限定出荷解除

◎メキシチール点滴静注 125 mg(一般名:メキシレチン塩酸塩)〈不整脈治療剤〉

2026年4月13日より限定出荷解除

◎ブスコパン錠 10 mg(一般名:ブチルスコポラミン臭化物)〈鎮痙剤〉

2026年4月20日より限定出荷解除

◎リパクレオンカプセル 150 mg(一般名:パンクレリパーゼ)〈膵消化酵素補充剤〉

2026年5月18日より限定出荷解除

◎シベンゾリンコハク酸塩錠 100 mg「サワイ」(一般名:シベンゾリンコハク酸塩)〈不整脈治療剤〉

2026年5月21日より限定出荷解除

◎オンダンセトロン注射液 4 mg「サンド」(一般名:オンダンセトロン塩酸塩水和物)〈5-HT₃受容体拮抗型制吐剤〉

2026年5月28日より限定出荷解除

適正使用のお願い

◎サムスカ OD 錠 7.5 mg(一般名:トルバプタン)〈V₂-受容体拮抗剤〉

効能又は効果の一つである「腎容積が既に増大しており、かつ、腎容積の増大速度が速い常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制(以下、ADPKD)」に対する使用について、後発品も含めたトルバプタン製剤全体で新たな適正使用管理体制(以下、新スキーム)が開始になりました。これに伴い、登録医師の確認方法が変更になりました。

引き続き、ADPKDに対するトルバプタンの処方・調剤時には適正使用に努めてください。

〈後発品を含む適正使用管理体制の概要〉

ADPKD患者へのトルバプタン処方時の対応	医師向け	原則処方箋の発行のみの対応 処方箋応需先の保険薬局においては登録医師情報検索専用サイト*で「受講修了医師」の確認を行うため、トルバプタンを処方される場合は、原則処方箋の発行のみとなります。なお、登録医師情報検索専用サイトは後発品を含む適正使用管理体制の開始前に登録された医師で、本サイトへの掲載許諾を得られていない医師は掲載されていませんので、その場合には「受講修了証の写し」を患者へお渡しいただき、薬剤受け取りの際に提示するようご指導ください。
調剤時の登録医師確認方法	薬剤師向け	以下のいずれかの方法で確認する(①不可の場合は②、②不可の場合は③を実施) ①処方箋受付時に登録医師情報検索専用サイト*で登録医師であることを確認、または受講修了証の写しを確認 ②処方医へ疑義照会 ③登録医師情報確認専用ダイヤル(電話番号: 0120-785-868)へのお問い合わせ
適正使用状況の確認方法	医師向け	年次継続教育の受講 毎年e-Learningシステムより年次継続教育受講依頼メールが対象の登録医師に送信されますので、ご案内に従い年次継続教育及び適正使用状況の調査にご協力お願いいたします。本調査結果に基づき、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(以下、PMDA)へ適正使用状況を報告いたします。
新たな適正使用管理体制における留意事項	共通	サムスカカードの新規発行は終了となりますが、登録医師のお手元にある発行済みのカード、及び既に患者に交付済みのカードは新スキームにおいても有効となります。詳細はP.3[新たな適正使用管理体制におけるサムスカカードの取り扱いについて]を参照ください。

*大塚製薬医療関係者向けサイトeライブラリ 登録医師情報検索専用サイト

<https://www.otsuka-elibrary.jp/var/pkdel/doctor/search>

販売中止時期変更のお知らせ

◎リーバクト配合経口ゼリー（一般名：L-イソロイシン、L-ロイシン、L-バリン）＜分岐鎖アミノ酸製剤＞

最終出荷時期：2026年9月 → 2027年1月頃（予定）

経過措置期間満了日：2027年3月31日（予定）

薬剤の血管外漏出時の対応について

薬剤の漏出時には、少量でも血管外漏出によって局所壊死を生じる可能性があります。

血管外漏出時の対応につきましては、リスクマネジメントマニュアル「10. 薬剤の血管外漏出事象時の対応」をご参照下さい。

また、抗がん剤の血管外漏出時には、腫瘍センターの外来化学療法室運用マニュアルを参照し、適切な対応を行ってください。

院内副作用報告

院内において以下の副作用が報告されましたのでお知らせいたします。

医薬品名	副作用
ランマーク	顎骨壊死

本剤の投与開始前は口腔内の管理状態を確認し、必要に応じて、患者に対し適切な歯科検査を受け、侵襲的な歯科処置をできる限り済ませておくよう指導してください。本剤投与中に異常が認められた場合には直ちに歯科・口腔外科を受診するように指導し、適切な処置を行ってください。

医薬品・医療機器等安全性情報 No. 429

★重篤副作用疾患別対応マニュアルについて

厚生労働省では、平成17年度から平成22年度にかけて「重篤副作用疾患別対応マニュアル」を作成しており、平成28年度からは、最新の知見等を踏まえた改定を進めているところである。本稿では、マニュアルの改定等の進捗、今後の予定及び普及啓発に関する取組みについて紹介する。

★病院及び薬局における医薬品安全性情報の入手・伝達・活用状況等に関する調査結果と望まれる方向について

PMDAでは、講じた安全対策措置が確実に実施され、より一層患者の安全が図られるよう、医療機関等における安全性情報の入手・伝達・活用状況を把握し、安全性情報の利活用推進に向けた方策を検討することを目的とした調査を平成22年度より実施している。今回の令和7年度調査においては、添付文書電子化を受けての情報入手状況やRMPの利活用状況のフォローアップに加え、これまでの薬剤師中心の調査は継続しつつ、診療における医薬品安全性情報の活用状況等も把握できるよう、医師を回答対象とした調査も実施した。本稿では、1) 情報入手、2) これまでの調査において課題とされたRMP等リスクコミュニケーションツールの理解・活用状況、及び3) GS1バーコードの活用状況に関する調査結果とその考察（望まれる方向）について紹介する。

★重要な副作用等に関する情報

*下線部追加改訂

以下の医薬品の使用上の注意のうち、重要な副作用等について改訂（追加）したので内容を紹介します。

◎レゴラフェニブ水和物（商品名：ステパーガ錠 40 mg）

【重大な副作用】 高アンモニア血症

肝機能異常を伴わずに、高アンモニア血症があらわれることがある。意識障害が認められた場合には、アンモニア値の測定を考慮すること。

※国内症例 7例（うち、死亡0例）

※医薬品医療機器総合機構における副作用等報告データベースに登録された症例のうち、医薬品と事象との因果関係が否定できない症例

医薬品・医療機器等安全性情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ（<https://www.pmda.go.jp/>）又は厚生労働省ホームページ（<https://www.mhlw.go.jp/>）から確認可能。

薬事委員会 委員各位

【1】新規採用依頼医薬品

①常備医薬品(合計9品目)

2026年6月4日オーダ開始予定

採用区分	商品名	剤形	規格	区分	薬価	会社名	成分・薬効
1	アスタット軟膏1% 265	軟膏	10g	-	16.1	マルホ	Lanocanazole 抗真菌剤 ★外耳道真菌症に対する局所治療(耳処理)に使用 ★外耳道真菌症の原因としてはAspergillus属が最も多く、約60~90%を絞めると報告されている。外耳道真菌症の治療には耳処理による真菌塊の除去と局所抗真菌薬の使用が重要であるが、Aspergillus属に有効で耳処理時に使用可能な軟膏製剤は限られている。アスタット軟膏はAspergillus属に対して抗真菌活性を有する外用薬であり、外耳道真菌症に対する局所治療に有効である。現在は個人処方(臨時採用)で対応しているため、受診した患者に直ちに使用することが出来ない状況である。しかし、外耳道真菌症は耳鼻咽喉科外来で比較的多くみられる疾患であり、他の軟膏剤と同様に外来処置時に迅速に使用できる体制が望ましい。そのため、外来配置薬として使用できるよう、常備医薬品としての採用を申請する。 ※臨時採用医薬品から常備医薬品へ移行 【発売:1996/06/26】
1	アムウトラ皮下注25mgシリンジ 129	皮下注	25mg	-	8006196.0	Alnylam Japan	Vutrisiran Sodium トランスサイレチン型アミロイドーシス治療薬 ★トランスサイレチン型心アミロイドーシス(ATTR-CM)患者に対し、トランスサイレチン産生抑制作用を有するsiRNA製剤であるアムウトラ(vutrisiran)を使用することにより、疾患の進行抑制及び心機能の維持・改善を図ることを目的とする。 ★本薬剤アムウトラ(vutrisiran)は、トランスサイレチン(TTR)の肝臓における産生をRNA干渉機構により抑制する唯一のsiRNA製剤である。現在、ATTR-CMに対する標準治療としてはTTR安定化薬(例:タファシス)が広く使用されているが、これらは既存のTTR四量体の安定化を作用機序としており、すでに進行した症例や治療反応が不十分な症例では、病態進行を完全に抑制することが困難である。本薬剤は高額薬剤であるものの、ATTR-CMは進行に伴い心不全増悪による入院や医療資源の消費が増大する疾患である。本薬剤により疾患進行が抑制されることで、入院回数の減少や長期的な医療費の抑制につながる可能性があり、医療経済的にも一定の合理性が期待される。 ※臨時採用医薬品から常備医薬品へ移行 【発売:2022/11/18】
1	キングარი-透析剤AF5号(6L) 341	透析剤	6L	-	2,577.00	扶桑薬品	人工腎臓透析用剤 ★腎代替療法において体内に蓄積した尿素素や過剰な電解質を除去し、体液・電解質および酸塩基平衡を維持・補正することを目的として使用する。 ★透析患者では腎機能低下に伴う電解質異常の管理が重要であるが、近年は患者の高齢化や長期透析症例の増加により、従来問題とされてきた高K血症・高Mg血症だけでなく、低K血症および低Mg血症への対応も重要となっている。これらの是正には栄養状態の改善が基本であるものの、透析液中のK+およびMg2+濃度は血清濃度に大きく影響する因子である。本薬剤は従来透析液と比較してK+およびMg2+濃度が高く設定されており、低K血症および低Mg血症リスクを有する患者の対して、より適切な電解質管理を行う事が可能となる。 【発売:2020/11/25】
1	トバiston散98.5% 116	散	985mg/g	-	44.1	大原薬品工業	Levodopa パーキンソン病治療剤 ★成長ホルモン分泌刺激試験に使用 ★小児ではインスリンが負荷試験の薬剤としては使用しづらい。 現行使用してきたカプセルの利用が困難な状況が持続しており代替薬としての利用を考えている。 添付文書上は薬剤としての適応は明記されていないが、成長ホルモン分泌刺激試験に関する一法としてL-DOPA負荷試験は明記されており保険適応となっている。 ※臨時採用医薬品から常備医薬品へ移行 【発売:1972/01/10】
1	トルミカムシロップ2mg/mL 112	シロップ	2mg/mL	向	1117.8	丸石製薬	Midazolam 催眠鎮静剤 ★小児の麻酔前投薬 ★数年前まで使用していたセルシンシロップが製造中止となり、代替薬として発売された。 【発売:2025/11/27】

1	ニゾラルクリーム2% 265	クリーム	10g	-	14.5	ヤンセンファーマ	Ketoconazole 外用抗真菌剤 ★皮膚カンタ症、白癬、脂漏性皮膚炎などの治療 ★現在院内採用ではニゾラルローション、院外採用でニゾラルクリームが使用可能である。 入院患者において、陰部などにびらんを伴う皮膚カンタ症が生じる事が多く、カンタに対しては現在院内採用のテルビナフィンクリームよりもニゾラルの方が効果が高い。 ローション剤はびらん面に使用することができないため、クリーム剤への切り替えを希望し、ニゾラルローションは院外採用品に申請したい。 ※院外専用医薬品から常備医薬品へ移行 ※常備医薬品としてニゾラルローション2%の採用あり 【発売:1993/12/01】
1	ルミセフ皮下注210mg ^{へん} 399	皮下注	210mg	劇	73,508.00	協和キリン	Brodalumab (Genetical Recombination) ヒト型抗IL-17受容体Aε/κローナル抗体製剤 ★尋常性乾癬、乾癬性関節炎、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、強直性脊椎炎の治療 ★本剤は2週に1回皮下注射する製剤であり、自己注射できる事が望ましい。 現在ルミセフのシリンジタイプを常備医薬品としているが、 ^{へん} タイプの発売に伴い、自己注射の容易な ^{へん} タイプへの変更を希望する。 ※常備医薬品としてルミセフ皮下注210mgシリンジの採用あり 【発売:2025/11/19】
1	エキシテンサー皮下注100mg ^{へん} 229	皮下注	100mg	劇	1143284.0	グラクソ・スミスクライン	Depemokimab(Genetical Recombination) ヒト化抗IL-5モノクローナル抗体 ★気管支喘息(既存治療によっても喘息症状をコントロールできない重症又は難治の患者に限る)、鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎(既存治療で効果不十分な患者に限る)への使用 ★本剤はアラセボ群と比較して、気管支喘息の年間増悪率を約48~58%低下させ増悪を繰り返す症例の安定化を主座にした薬剤である。エキシテンサーは6ヶ月製剤であるため、高額療養制度を最大限活用し患者負担(通院頻度)の軽減に強みがある薬剤といえる。 【発売:2026/04/15】
1	カリメト経口液20% 219	経口液	25g	-	77.8	興和	Calcium Polystyrene Sulfonate 血清カリウム抑制剤 ★急性及び慢性腎不全に伴う高カリウム血症 ★類薬であるケイキサレートDS、ホリスチレンスルホン酸Naの発売中止に伴い、院内に採用があるカリウム吸着剤はホリスチレンスルホン散Caゼリー、ロケルマ、ビルタサであるが、ロケルマ、ビルタサは効果、薬価の面から急性期に一時的に使用する位置づけである。これに対し、ケイキサレートDSは長期的に継続する薬剤であるが、同じ位置づけのホリスチレンスルホン散Caゼリーがゼリーという特殊な形態であり、患者の好みが大きく分かるところである。本剤は切換品であるケイキサレートDSの剤型に近く、水なしでも服用可能である。L効果、薬価の面でも近似しており、ケイキサレートDSの代替品として好適と考える。 【発売:2012/06/22】

⑥臨時採用医薬品 (合計14品目)

採用区分	商品名	剤形	規格	区分	薬価	会社名	成分・薬効
6	アビガン錠200mg 625	錠	200mg	劇	39,862.5	富士フィルム富山化学	Favipiravir 抗ウイルス剤 ★SFTS診療の手引き(2025)が改訂され、SFTSにてはできる限り早くアビガンを投与することを検討するという文言があり、SFTS発生数の多い山口県ではアビガンを投与する準備を整えておくことが重要と考える。 ★全国的にみて山口県はSFTS患者数が多い県になるが、大学病院に搬送されるSFTSは年1人もいないため当院でのSFTS入院患者は2023年が最後である。 ★2018年に開始された企業治験(多施設共同・オープンラベル・既存対照比較試験)において、ファビピラビル投与群の致死率は13.0%(3/23)であり、治験参加施設のファビピラビル非投与群から傾向スコアマッチングされた既存対照患者23人の致死率は26.1%(6/23)であった。これにより、ファビピラビルの投与は致死率を半減することが示唆された。 【発売:2024/08/15】
6	イブトロジーカプセル200mg 429	cap	200mg	劇	9,711.2	日本化薬	Taletrectinib Adipate 抗悪性腫瘍剤(チロシンキナーゼ阻害剤) ★既存薬の耐性変異にも有効で、頭蓋内病変への高い移行性と奏効を示す。既存薬での治療が限界となった患者への有効な次治療として、必要と考えられる。 ★耐性獲得例や脳転移有する患者にも使用しやすく有効性も認められている。 【発売:2025/11/12】

6	エアウイン皮下注用60mg 219	皮下注	60mg	劇	1,441,677.0	MSD	Sotatercept (Genetical Recombination) アケチンシグナル伝達阻害剤 ★重症肺動脈性肺高血圧症に対して複数系統の薬剤の併用投与を行っている。 一定の効果を得ているが、現在も中等症～重症にカテゴリー「S」され、治療として不十分な状態である。 ★当院常備薬では同様の作用機序を有する薬剤が存在しない。 ★平均肺動脈圧の更なる改善と自覚症状の改善が見込まれる。 ※臨時採用医薬品としてエアウイン皮下注用45mgの採用あり 【発売:2025/08/18】
6	ブルキンザカプセル80mg 429	cap	80mg	劇	6,636.1	ビーワン・メディン ス	Zanubrutinib 抗悪性腫瘍剤 (ブルトン型チロシンキナーゼ阻害剤) ★慢性リンパ性白血病、原発性マクログロブリン血症 ★慢性リンパ性白血病に対しては従来薬としてイブルチニブやアカラブルチニブがBTK阻害剤として投与可能となっている。慢性リンパ性白血病においてはイブルチニブに比べ心血管系イベントが少ない傾向が示されており継続投与が行いやすい薬剤となっている。また、原発性マクログロブリン血症に対してはイブルチニブ、チラブルチニブが投与可能だが、イブルチニブはリツキシマブとの併用療法であり、チラブルチニブは傾向剤単独での治療が可能である利点がある。 ★慢性リンパ性白血病、原発性マクログロブリン血症の全生存期間及び無増悪生存期間延長 【発売:2025/03/19】
6	プレバリス顆粒分包120mg 625	顆粒	120mg	劇	10,006.2	MSD	Letermovir 抗サイトメガロウイルス化学療法剤 ★同種造血幹細胞移植後では移植前処理の影響により高度の粘膜障害を合併することが多い、CMV感染症予防のためプレバリス錠の投与を行う際、錠剤が大きく内服困難になってしまケースが多く点滴製剤へ移行せざるを得なくなっていた。 ★プレバリス投与の適応となる症例はCMV再活性化リスクが高く、CMV感染症は時に致命的経過をたどる疾患であり予防薬の投与が望ましい。また治験薬であるデブリンやバリキサ、ホスカビル等は血液毒性や腎毒性などがあり、粘膜障害出現時もプレバリス内服の継続によりCMV感染症の予防を行いたい。 ★サイトメガロウイルス感染症の予防。 ※常備医薬品としてプレバリス錠240mg、プレバリス点滴静注240mgの採用あり 【発売:2025/10/27】
6	ゾレバリス皮下注ペン 243	皮下注	168 μ g	-	571,509.0	帝人ファーマ	Palopegteriparatide 副甲状腺機能低下症治療剤 ★副甲状腺機能低下と続発性てんかんの診断に至ったため、活性型ビタミンD3が開始となった。活性型ビタミンD3過剰による高カルシウムで入院歴もあるが、同製剤による治療を継続している。 ★従来治療は、活性型ビタミンD3もしくはカルシウム剤であるが、両剤ともに血清Caのコントロールを目的とした薬剤であり、Pの不足・欠乏による上記症状の改善は困難である。実際に本症例では、活性型ビタミンD3の過剰投与による高カルシウム血症をきたした経緯があり、血清カルシウムは低めだが、増量せずに治療を継続している。 ★本剤は国内で初めてのPTH補充療法であり、Pを生理学的範囲内に維持することにより副甲状腺機能低下に伴う血清Ca・リン・尿中Caの是正、および筋痙攣などの諸症状の改善が期待できる。従来治療は活性型ビタミンD3、カルシウム剤であるが、ともに血清Caのコントロールを目的とした薬剤でPの欠乏による症状の改善は困難である。 【発売:2025/11/06】
6			294 μ g	-	584,139.0		
6			420 μ g	-	596,310.0		
6	ルスミオ皮下注5mg 429	皮下注	5mg	劇	266,843.0	中外製薬	Mosunetuzumab(Genetical Recombination) 抗悪性腫瘍剤(抗CD20/CD3ヒト二重特異性モノクローナル抗体) ★再発難治性の濾胞性リンパ腫/再発難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫 ★2レジメン以上の治療後の再発難治性の濾胞性リンパ腫に対して点滴静注が適応となっているが、今回新たに皮下注製剤が登場した。投与が簡便で在院時間の短縮につながる利点がある。また、再発難治性のびまん性大細胞型リンパ腫に対してホラツマブ・ヘドチンとの併用が可能となった。従来の化学療法に比べ無増悪生存期間の延長が報告されている。 ★2レジメン以上の治療後の再発難治性の濾胞性リンパ腫、及び再発難治性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する無増悪生存期間の延長 ※臨時採用医薬品としてルスミオ点滴静注1mg、30mgの採用あり 【発売:2026/03/18】
6	ルスミオ皮下注45mg 429		45mg	劇	2,327,787.0		

6	ブーレンツップ点滴静注用100mg 429	点滴静注	100mg	劇	1,284,052.0	グラク・スミク イン	Belantamab Mafodotin(Genetical Recombination) 抗悪性腫瘍剤(微小管阻害薬結合ヒト化抗BCMAモノクローナル抗体) ★再発難治性の多発性骨髄種に対して多数の薬剤が投与可能となっているが、特に高齢患者においては必ずしも忍容性が良好とは言えず、治療継続が困難な場合がある。 ★多発性骨髄種の二次治療として、ベランタマブマホドテンはホルテゾミアあるいはホマトミトの併用において無増悪生存期間の延長が示されている。他の薬剤に比べ投与間隔が長く、頻回通院が困難な患者でも使用しやすい薬剤である。 ★再発・難治性多発性骨髄種に対する無増悪生存期間の延長 【発売:2026/03/18】
6	ミンジュビ点滴静注用200mg 429	点滴静注	200mg	劇	125,201.0	インサイト・バイオ サイエンス・シヤバ ン合同会社	Tafasitamab(Genetical Recombination) 抗悪性腫瘍剤(抗CD19モノクローナル抗体) ★再発難治性の濾胞性リンパ腫ではさまざまな治療が選択されるが、特に早期再発例は著しく予後が不良であることが知られている。 ★抗CD19抗体であるタファンタマブ(ミンジュビ)はR2療法に上乗せすることで無増悪生存期間を延長することが報告されている。 ★再発・難治性濾胞性リンパ腫に対する無増悪生存期間の延長 【発売:2026/03/18】
6	エルゾニス点滴静注1000 μg 429	点滴静注	1000 μg	劇	3,607,878.0	日本新薬	Tagraxofusp(Genetical Recombination) 抗悪性腫瘍剤 ★芽球形形質細胞様樹状細胞腫瘍 ★芽球形形質細胞様樹状細胞腫瘍(BPDCN)は白血病とリンパ腫の療法の性質を示し、特徴的な皮膚症状やリンパ節及び骨髄浸潤を伴う稀な造血器悪性腫瘍である。リンパ腫や白血病に準じた治療が行われるが極めて予後不良とされる。今回、IL-3にシフトリ毒素を結合させた薬剤であるエルゾニスがBPDCNに対する治療薬として承認された。 ★芽球形形質細胞様樹状細胞腫瘍の全生存期間及び無増悪生存期間の延長 【発売:2026/03/18】
6	リプロファス配合皮下注 429	皮下注	-	劇	480,046.0	ヤンセンファーマ	Amivantamab(Genetical Recombination), Vorhyaluronidase Alfa(Genetical Recombination) 抗悪性腫瘍剤(抗ヒEGFR及び抗ヒMETヒト二重特異性モノクローナル抗体/ヒアルロン酸分解酵素配合剤) ★既存薬のライブリハントよりインフュージョンリアクションや血栓の有害事象少なく新規薬として導入の有用性が高い。 ★上記の通り有害事象懸念する患者にも使用しやすく有効性も認められている。 【発売:2026/03/18】

⑦院外専用医薬品 (合計11品目)

採用 区分	商品名	剤形	規格	区分	薬価	会社名	成分・薬効
7	オーキス9 μgタービュヘイラー吸入 225	タービュヘイラー	9 μg 60吸入	-	1,817.90	明治	Formoterol Fumarate Hydrate ドライパウダー吸入式気管支拡張剤 ★慢性閉塞性は疾患における気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解 ★オーキス処方現在4人であり、その全てが外来患者である ※常備医薬品から院外専用医薬品へ移行 【発売:2013/11/29】
7	スピシア点鼻液 113	点鼻液	5mg	向	8,336.5	ヴァイアリス	Diazepam 抗けいれん剤 ★てんかん重積状態の改善 ★従来の抗てんかん発作薬では、発作時に意識障害がある場合は経口摂取できない、強直間代発作時には坐薬挿肛ができないなど、院外での対応が困難であった。本剤は点鼻薬のためにこれらのシチュエーションでも対応可能で、救急搬送回数の低減や脳のダメージの軽減が期待できる。 【発売:2025/12/24】
7			7.5mg	向	9,337.60		
7			10mg	向	10,120.0		
7	ニゾラルローション2% 265	ローション	10g	-	22.1	岩城製薬	Ketoconazole 外用抗真菌剤 ★脂漏性皮膚炎、癬風などの治療 ★現在常備医薬品となっているが、ローション剤よりも使用頻度が高いニゾラルクリームを常備医薬品とし、その代わりとしてローション剤を院外専用医薬品に転換。 ※常備医薬品から院外専用医薬品へ移行 【発売:2003/07/14】
7	マトパー配合錠L50 116	錠	レボドパ 50mg、ベンセ ラジド12.5mg	-	11.4	太陽ファルマ	Benserazide Hydrochloride, Levodopa パーキンソン病治療剤 ★パーキンソン病、パーキンソン症候群の運動症状の改善目的 ★現在、マトパー100mg錠を使用しているが、半錠を処方するなどの症例が多く、より細やかなコントロールをする患者に有用。 ※常備医薬品としてマトパー配合錠L100の採用あり 【発売:2024/06/14】

7	メトヘル錠小児用1mg 119	錠	1mg	-	103.9	ノーヘルファーマ	Melatonin メトニン受容体作動性入眠改善剤 ★メトヘル顆粒が服用出来ない患者への投与に使用 ★本剤は小児における入眠困難症に対して適応を有する国内唯一のメトニン受容体作動性入眠改善剤であり、自然な睡眠導入を促す作用機序を有する。 本剤は生理的な睡眠機構に近い作用を有し、有効性と安全性のバランスに優れると考えられる。また、依存性が低く、長期使用においても比較的安全に用いることができるため、臨床的有用性は高い。剤型追加となった錠剤のメリットとしてPTPシートにより持ち運びが便利な点・顆粒剤を好まない患者に対して治療を行える点がある。薬価も顆粒剤と同薬価であり、患者の選択肢も広がる。 ※常備医薬品としてメトヘル顆粒小児用0.2%の採用あり 【発売:2025/07/24】
7	リハルエンLAパッチ 119	パッチ	25.92mg	劇	215.0	東和薬品	Rivastigmine アルツハイマー型認知症治療剤 ★軽度及び中等度のアルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制 ★本剤は、日本初の持続放出性リバスチグミン経皮吸収型製剤であり、週2回投与が可能である。服薬拒否及び嚥下困難といった患者や、投与管理に負担を感じる家族・介護者の負担軽減が期待される。添付文書上、25.92mgから開始し、原則として4週後に維持量である51.84mgに増量することとされており、25.92mgと51.84mgの両規格が必要である。 【発売:2025/05/28】
7			51.84mg	劇	327.7		
7	ホラニコ錠10mg 429	錠	10mg	劇	31,791.80	日本セルゲイ	Vorasidenib Citric Acid Hydrate 抗悪性腫瘍剤 ★本剤は、IDH変異陽性神経膠腫患者における腫瘍増殖の抑制を目的として使用する。 ★これまでIDH遺伝子変異陽性の神経膠腫に対して承認された治療法は無かったが、この度ホラジネブが承認となった。 IDH遺伝子変異陽性の神経膠腫の治療法として対象患者への唯一承認された治療法である。 【発売:2026/03/30】
7	アハレプト懸濁性点眼液0.3% 131	点眼液	0.003	-	577.50	千寿製薬	Motugivatrep ドライアイ治療剤(TRPV1拮抗薬) ★ドライアイ、特に自覚症状が優位で既存治療では症状が十分にコントロールできない症例に対する点眼治療。 ★本剤は角膜知覚神経終末のTRPV1を選択的に遮断し、神経過敏性に起因する自覚症状を直接軽減する点で既存薬と作用機序が異なる。当科外来における既存治療抵抗性ドライアイ患者への新たな選択肢として処方ニーズが見込まれるため、院外処方での新規採用を申請する。 【発売:2026/04/06】

【2】新薬申請時に挙げられた削除可能医薬品(合計6品目)

採用区分	商品名	剤形	規格	区分	削除理由
1	アリナミン注射液10mg	注	10mg	-	アスタット軟膏1%採用の場合、削除
1	アロンアルファA「三共」	外用	-	-	アムウトラ皮下注25mgシリンジ採用の場合、削除
1	ポリスチレンスルホン酸Na「フソー」原末	散剤	-	-	キンダリー透析剤AF5号(6L)採用の場合、削除
1	カタプレス錠75μg	錠	75μg	-	ドバストン散98.5%採用の場合、削除
1	セルシン散1%	散剤	10mg/g	向	ドルカムシロップ2mg/mL採用の場合、削除
1	ケイキサレートドライシロップ76%	ドライシロップ	3.27g	-	カリメート経口液20%採用の場合、削除

※削除可能医薬品は、次回薬事委員会までに全診療科に確認を行い、診療、治療上問題のない場合、次回薬事委員会の承認を経て、削除します。
ただし、治療に問題のある場合は、削除可能医薬品の変更等の手続きが必要となります。

【3】削除医薬品(合計7品目)

採用区分	商品名	剤形	規格	区分	削除理由
1	スポンセル	外用	2.5cm×5cm	-	スキリーン皮下注180mgオートサー採用のため、削除
1	ヒフェデュラ配合皮下注	配合皮下注	-	劇	ヒフェデュラ配合皮下注シリンジ採用のため、削除
1	ルミセフ皮下注210mgシリンジ	皮下注	210mg	劇	ルミセフ皮下注210mgペン採用の場合、削除
1	ニゾラルローション2%	ローション	10g	-	ニゾラルクリーム2%採用の場合、区分7へ移行

1	オーキシス9 μgタービュヘイラ60吸入	吸入	9 μg60吸入	-	エキシデンサー皮下注100mgへン採用の場合、区分7へ移行
---	----------------------	----	----------	---	-------------------------------

【4】報告事項

1) 緊急使用医薬品の薬剤部長承認について

① 緊急使用医薬品(合計5品目)

採用区分	商品名	剤形	規格	区分	薬価	会社名	成分・薬効等
11	エアウイン皮下注用60mg 219	皮下注	60mg	劇	1,441,677.0	MSD	Sotatercept (Genetical Recombination) アクチンシグナル伝達阻害剤 ★重症肺動脈性肺高血圧症に対して複数系統の薬剤の併用投与を行っている。 一定の効果を得ているが、現在も中等症~重症にカテゴリーされ、治療として不十分な状態である。 ★当院常備薬では同様の作用機序を有する薬剤が存在しない。 ★平均肺動脈圧の更なる改善と自覚症状の改善が見込まれる。 ※臨時採用医薬品として申請あり 【発売:2025/08/18】
11	レキユニール HCa 2.5腹膜透析液 UVツインパック 342	腹膜透析液	1.5L	-	1,231.0	ハクスター	腹膜透析用剤 ★慢性腎不全に対して腹膜透析を実施している患者。除水不良で2.5%に変更し外来通院されていた。足や眼瞼の浮腫、胸写にて胸水の指摘あり、泌尿器科にて入院加療となった。症状改善により退院予定となったが退院処方が必要であった。 ★当院採用の1.5%では除水が不十分である。 当規格(HCA2.5%UVツイン)は院外専用で採用されており、次回外来からは院外処方に対応予定。 ★腎硬化症、慢性腎臓病、末期腎不全に対して自宅にて腹膜透析によるコントロールが可能である。 【発売:2014/02/14】
11	エスカゾール錠200mg 642	錠	200mg	劇	312.3	グラクソ・スミスクライン	Albendazole 駆虫剤 ★肝腫瘍精査にて寄生虫感染症と診断 ★代用薬がないため ★感染症の改善 【発売:1994/04/15】

※緊急使用医薬品は、薬剤部長が申請者に対しヒアリングを行った上で、薬剤部長が決裁を行うこととされています。ただし、継続して使用する場合は、次回の薬事委員会において、採用区分に沿った正式な申請を行うこととなります。

2) 販売中止に伴う代替薬の採用について

販売中止薬	代替薬	
イオバミロン注300 20mL(914円)	→ イオバミドール300注20mL「F」(1,394円)	2026年3月11日切替済
コバシル錠4mg(51.1円)	→ ペリンドプリルエルブミン錠4mg「サワイ」(24.6円)	2026年4月1日切替済
デルモベートクリーム0.05% 5g(14.6円)	→ クロベタゾールプロピオン酸エステルクリーム0.05%「MYK」(11.7円)	2026年4月1日切替済

3) 供給停止に伴うオーダー一時停止について

オーダー一時停止薬	代替薬	
献血グロベニン-I静注用5000mg(86,993円)	→ グロベニン-I 10%静注5g/50mL(66,918円)	2026年2月27日切替済
シプロキサシ注400mg(1,739円)	→ シプロフロキサシン点滴静注液400mg「ニプロ」(1,199円)	2026年3月11日切替済
ユベラ軟膏(5円/g)	→	2026年4月9日より処方オーダー一時停止

4) 供給停止解除に伴う処方オーダー再開について

	オーダー再開	
2025年4月11日から処方オーダー一時停止	→ ミオコールスプレー0.3mg	2026年3月7日処方オーダー再開
2026年3月12日から処方オーダー一時停止	→ アイリア硝子体内注射用キット40mg/mL	2026年4月16日処方オーダー再開
2024年2月28日から処方オーダー一時停止	→ イミグラン点鼻液20	2026年3月27日処方オーダー再開

5) 販売停止に伴うオーダー停止について

販売中止薬	
メレックス錠1mg	→ 2026年4月1日より処方オーダー停止
EPLカプセル250mg	→ 2026年4月1日より処方オーダー停止
タズベリック錠200mg	→ 2026年4月2日より処方オーダー停止
ゼオメイン筋注用50単位	→ 2026年4月18日より処方オーダー停止(同日より新販売名のゼオメイン注用50単位のオーダー開始)
ゼオメイン筋注用200単位	→ 2026年4月18日より処方オーダー停止(同日より新販売名のゼオメイン注用200単位のオーダー開始)

6) 「メトクロプラミド注10mg」2銘柄併存終了について

メクロプラミド注10mg「NIG」	→ すべての病棟および診療科	2026年4月3日処方オーダー再開
塩酸メクロプラミド注射液10mg「タカタ」	→ 使用終了	2026年4月3日処方オーダー停止

7)一部常備医薬品の臨時採用医薬品への移行について

ムルプレタ錠3mg	→ 常備医薬品から臨時採用医薬品へ区分変更
カボメテイクス錠60mg	→ 常備医薬品から臨時採用医薬品へ区分変更
ハベカシン注射液100mg	→ 常備医薬品から臨時採用医薬品へ区分変更
カンサイダス点滴静注用70mg	→ 常備医薬品から臨時採用医薬品へ区分変更
シベクトロ点滴静注用200mg	→ 常備医薬品から臨時採用医薬品へ区分変更
ジオトリフ錠20mg	→ 常備医薬品から臨時採用医薬品へ区分変更

麻：麻薬、毒：毒薬、劇：劇薬、向：向精神薬、特生：特定生物由来製品、生：生物由来製品（20年間記録保存が必要な薬剤に限る）、ハイリスク：当院における医療安全上注意を要する薬剤

※採用区分（1：常備医薬品、2：救急用医薬品、3：製剤原料用薬品、4：自由診療医薬品（薬価基準非収載医薬品）、5：再生医療等製品、6：臨時採用医薬品、7：院外専用医薬品、8：臨床研究用医薬品、9：特例承認医薬品、10：放射性医薬品、11：緊急使用医薬品）